

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多面的世界像の探求」2015年度第2回公開セミナー報告

タイトル:現代アフリカにおける都市—農村関係～ザンビア農村部における生計変容と中小都市との相互作用

日時:2015年7月2日(木)17時00分～19時00分

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室(301)

司会:目黒紀夫(AA研)

講師:伊藤千尋(横浜市立大学)

コメンテーター:上田元(一橋大学)

参加者:25名

内容:

今回のセミナーでは、現代アフリカにおける都市—農村関係について、ザンビア南部の農村および都市をフィールドとして調査をされ、最近に単著を刊行された伊藤千尋氏を講師に招いた。近年のアフリカ研究においては都市と農村の関係があらためて注目されており、いっぽうでは農村部における生計活動の多様化や空間的な拡大が、もういっぽうでは都市部における生計のインフォーマル化や農村部への人口の移動・還流などが指摘されているという。そうしたなかにあつて、伊藤氏が主なフィールドとするザンビア南部の農村には、20世紀半ばのダム開発にともない移住を余儀なくされた人びとが暮らしている。彼ら彼女らは、干ばつなどの自然環境の変動、構造調整以下の政治・経済状況の変化、最近のグローバリゼーションの影響下にあつて、村内で農耕をするだけでなく近隣の都市とのあいだを頻繁に行き来し、さまざまな「農村ビジネス」に従事するようになっている。講演のなかでは、「農村ビジネス」およびそれに従事する人びとの特徴や最近の変化、調査村からの出稼ぎの特徴とその時代的な変遷、村人の主な出稼ぎ先である地方／中小都市の歴史と現在の産業構造などが説明された。そして、今日のアフリカでは農村と都市とを別個の領域として対置して議論することは適切ではなく、人と資本のネットワークとして柔軟に捉えることが重要ではないかということがいわれた。

コメンテーターの上田元氏からは、まず、「農村ビジネス」をめぐる人間関係の具体的な様相や経済活動にかかわる客観的な数値、地方分権化にともなう分県化の影響、「農村ビジネス」従事者が土地を集積させることが他の住民との関係にどのような影響を及ぼすのかといった点が質問された。そして、伊藤氏の研究関心は都市圏という言葉で表現できるのではないかと指摘したうえで、伊藤氏が調査をしてきた地方／中心都市がその周囲に位置する(調査村以外の)村や都市にどのような影響を及ぼしているのか、今回の事例村は近隣都市や国境との地理的關係の面で特殊なのではないかとの疑問を提示した。こうした上田氏のコメント・質問に関連して、他の

参加者からは「農村ビジネス」の 카테고리의妥当性や隣国ジンバブエとの関係性、アフリカ農村における多生業の一般性といった論点が提起された。これらの論点すべてについて何か明確な答が出たわけではないが、現代アフリカにおける都市—農村関係を考えるうえで、地域の歴史性を踏まえてどのような点を調査・研究することが求められているのかについて、伊藤氏の研究を足掛かりとして一定の共通理解はもてたように思う。

※当報告の内容は著者の著作物です。 Copyrighted materials of the authors.